

| | | | |
|---------|--|------|------|
| 授業科目名 | 文化産業論 | 担当教員 | 李 知映 |
| 必修の区分 | 選択 | | |
| 単位数 | 2単位 | | |
| 授業の方法 | 講義 | | |
| 開講年次 | 3年第3クォーター | | |
| 講義内容 | <p>「文化」は、経済とは相容れないもの、と考えられがちである。しかし、歴史的に見ても、文化は常に経済的なパトロンを必要としてきた。近年では、経済活動に対する芸術文化の貢献への関心も高まるなど、文化と経済との関係には多様な側面が見られる。文化産業における文化概念は、狭義の芸術ジャンルのみならず、広告、建築、デザイン、各種メディア、ゲーム、ソフトウェアなどを包括する。本講義においては、芸術文化と産業・経済の複雑な関係について、文化産業論以外に、文化政策学や文化資源学等も利用し、その歴史や理論等を多角的にみていきたい。</p> | | |
| 到達目標 | <p>① 芸術文化と経済・産業の複雑な関係について、その歴史や理論を踏まえて多角的に理解する。 ② 日本社会、とりわけ地域経済の持続可能な発展のために、文化産業論の観点から、芸術の創造・発信、流通・雇用・消費（マーケット）、そしてコミュニティ形成（再生）の諸問題について、その全体像を具体的にイメージし、新たな価値創造の提案ができるようになる。</p> | | |
| 授業計画 | <p>① イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明 文化とは何か ・「文化」概念の成立と変容を把握し、文化産業論が扱う領域を概観</p> <p>② 文化経済とは ③ 文化政策の根拠 ④ 文化芸術と経済 ⑤ 資本としての文化 ・文化産業論や文化資本論、知識産業論、クリエイティブ産業論などの考え方を把握し、資本主義経済と文化の関係を考察</p> <p>⑥ 文化産業 ・アドルノとホルクハイマーなどの議論から考察</p> <p>⑦ 文化産業と地域社会 ⑧ 創造産業、クール・ジャパン ⑨ 創造都市とは ⑩ 現代文化としての観光・地域社会 ・現代の消費文化としての観光を、J.Urry「観光のまなざし」やS.Zukin「Authenticity」などの議論から考察する</p> <p>⑪ 各自の研究調査に基づく報告会（1） ⑫ 各自の研究調査に基づく報告会（2）</p> | | |
| 事前・事後学習 | <p>配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。</p> | | |
| テキスト | <p>特になし。</p> | | |

| | |
|----------------|--|
| 参考文献 | 河島伸子 『コンテンツ産業論－文化創造の経済・法・マネジメント－』 (ミネルヴァ書房、2009) 河島伸子、生稲史彦編著 『変貌する日本のコンテンツ産業－創造性と多 様性の模索－』 (ミネルヴァ書房、2013) など。 必要に応じて授業中に紹介する。授業のなかで関連資料を配布すること もある。 |
| 成績評価 の基準 | 成績はプレゼンテーション (1回: 30%) と小テスト (2回: 30%) や授 業への参加度・積極性等 (40%) による総合評価。 |
| 履修上の注意 履修要件 | 特になし。 |
| 実践的教育 | 該当しない。 |
| 備考欄 | |